

■ 見直しの要点及び概要

- 1 見直し式の設定に用いた雨量データは、現行式（～H16）に近年（H17～R1）を加えたものを使用。
- 2 ブロック分割（福岡、筑豊、北九州、県南）は現行と同じ
- 3 補正係数は、近年の降雨状況等を考慮して一部見直し
- 4 見直し式による4ブロックでの降雨強度は、福岡、北九州については微増、筑豊、県南については増加

現行式と見直し式との比較表

	現行式	見直し式																																			
雨量統計期間 (短時間)	福岡：1909年(M42)～2004年(H16) 筑豊：1936年(S11)～2004年(H16) 北九州：1923年(T12)～2004年(H16) 県南：1931年(S6)～2004年(H16)	福岡：1909年(M42)～2019年(R1) 筑豊：1936年(S11)～2019年(R1) 北九州：1923年(T12)～2019年(R1) 県南：1931年(S6)～2019年(R1)																																			
ブロック分割	4ブロック（福岡、筑豊、北九州、県南）	同左																																			
降雨強度 (短時間)	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">地域</th> <th colspan="4">降雨強度R60 (mm/hr)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">確率1/10</th> <th colspan="2">確率1/30</th> </tr> <tr> <th>現行</th> <th>見直し</th> <th>現行</th> <th>見直し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福岡</td> <td>55.5</td> <td>58.1 ↗</td> <td>68.4</td> <td>71.9 ↗</td> </tr> <tr> <td>筑豊</td> <td>61.6</td> <td>64.4 ↗</td> <td>74.0</td> <td>77.7 ↗</td> </tr> <tr> <td>北九州</td> <td>53.2</td> <td>54.6 ↗</td> <td>62.9</td> <td>65.5 ↗</td> </tr> <tr> <td>県南</td> <td>59.9</td> <td>67.0 ↗</td> <td>74.9</td> <td>78.6 ↗</td> </tr> </tbody> </table>				地域	降雨強度R60 (mm/hr)				確率1/10		確率1/30		現行	見直し	現行	見直し	福岡	55.5	58.1 ↗	68.4	71.9 ↗	筑豊	61.6	64.4 ↗	74.0	77.7 ↗	北九州	53.2	54.6 ↗	62.9	65.5 ↗	県南	59.9	67.0 ↗	74.9	78.6 ↗
地域	降雨強度R60 (mm/hr)																																				
	確率1/10		確率1/30																																		
	現行	見直し	現行	見直し																																	
福岡	55.5	58.1 ↗	68.4	71.9 ↗																																	
筑豊	61.6	64.4 ↗	74.0	77.7 ↗																																	
北九州	53.2	54.6 ↗	62.9	65.5 ↗																																	
県南	59.9	67.0 ↗	74.9	78.6 ↗																																	

※ 河川整備課との開発協議案件に係る福岡県降雨強度式の適用は以下のとおり。

- ・ **令和4年3月31日まで**に、降雨強度式を用いて河川整備課と協議した案件
 - 現行式も見直し式も適用可能。
- ・ **令和4年4月1日以降**に、降雨強度式を用いて河川整備課と協議した案件
 - 見直し式を適用する。